

本会の活動から

第91回日本産業衛生学会で ポスター発表

第91回日本産業衛生学会（企画運営委員長 加藤貴彦・熊本大学大学院生命科学部教授）が5月16～19日「悠なる産業保健——人と科学技術の連鎖」をメインテーマに、熊本県熊本市で開催された。昨今、人口知能（AI）やロボットによる仕事の代替など、科学技術の連鎖に注目し、その軌跡と未来について議論を深めることを目的に、メインシンポジウム3題、シンポジウム14題、共同シンポジウム3題、教育講演10題、フォーラム5題の他、多数の一般発表や自由集会など充実したプログラムが組み立てられ、約3200人が参加した。

筆者は、「労働衛生機関が提供する健康支援の構



その他の活動

○第118回日本外科学会定期学術集会（会頭 國土典宏・国立国際医療研究センター理事長）が4月5～7日、「外科学の新知見を求めて」をテーマに東京都千代田区で開催され、がん検診・診断部長の坂佳奈子が参加した。

○第1回にいがた乳房超音波技術講習会が4月7～8日、新潟県新潟市で開催され、がん検診・診断部長の坂佳奈子が講師として参加した。

○第74回日本放射線技術学会総会学術大会（大会長 錦成郎・天理よろづ相談所病院技師長）が4月12～15日、「夢のような創造科学と人にやさしい放射線医学」をテーマに神奈川県横浜市で開催され、放射線部のスタッフ1人が参加した。

○第115回日本内科学会総会・講演会（主宰会長 河野修興・広島都市学園大学、広島大学名誉教授）が4月13～15日、「明治維新150年目の内科学——難治性疾患への挑戦」をテーマに京都府京都市で開催され、総合健診部長の川井三恵が参加した。

○第104回日本消化器病学会総会（会長 小池和彦・東京大学医学部教授）が4月19～21日、「深化する多様性——消化器病の未来を描く」をテーマに東京都新宿区で開催され、理事長の小野良樹が参加した。

○第39回マンモグラフィ講習会が4月21～22日、愛知県名古屋市で開催され、がん検診・診断部長の坂佳奈子が講師を務めた。

○第70回日本産科婦人科学会学術講演会（学術集会長 八重樫伸生・東北大学教授）が5月10～13日、

築 第1報——健診結果集計を健康づくり対策へ」というテーマでポスター発表を行い、事業所の健康づくりに役立てていただくために本会が作成している健診結果集計が、おおむね活用されているものの専門職のいない事業所では十分に活用されていないことがあることから、今後は、こうした事業所を中心に、より積極的な支援活動に取り組んでいきたいと考えている旨を述べた。

座長の産業医科大学の永田智久先生からは、「大多数を占める中小企業の健康支援を行うに当たり、労働衛生機関のこうした取り組みに大いに期待しています」とのエールをいただいた。

会場の熊本市民会館は熊本城に隣接しており、熊本が地震災害からの復旧、復興に向けて頑張っている様子が見え、私たちが日々の活動により一層励んでいきたいと思った。

健康増進部課長 加藤京子

第43回日本超音波検査学会学術集会 パネルディスカッションで報告

第43回日本超音波検査学会学術集会（大会長 田中教雄・国立循環器病研究センター臨床検査部）が6月1～3日、「基本は普遍、応用はその上に成り立つ」をテーマに大阪府大阪市で開催された。

今回の学術集会は、特別講演、教育セッション、シンポジウム、パネルディスカッション、一般演題等で構成され、その領域は循環器、血管、腹部、体表、検診と多岐にわたっていた。

検診検査部長 神宮字広明

宮城県仙台市で開催され、検査研究センター長の木口一成と細胞病理診断部長の久布白兼行が参加した。木口はランチョンセミナー「本邦における今後の子宮頸がん対策——異なるワクチン接種環境における検診の役割」で、久布白はポスターセッションで、それぞれ座長を務めた。

○第26回日本乳癌学会学術総会（会長 戸井雅和・京都大学大学院医学研究科外科学講座教授）が5月16～18日、「Creative Japan 新たな時代」をテーマに京都府京都市で開催され、がん検診・診断部長の坂佳奈子が参加。ランチョンセミナーで、「デンスプレスト問題——トモシンセシスの挑戦」と題して講演した。

○平成30年度全国がん検診指導者講習会が5月19日、東京都中央区で開催され、がん検診・診断部長の坂佳奈子が講師として参加。「乳がん検診の要点」について講演した。

○第5回健康と経営を考える会シンポジウムが5月22日、「健康経営・データヘルズで国・会社・家庭を変える——経営・健保・社員が一体となった『新たな価値創造』の実現を」をテーマに東京都千代田区で開催され、常務理事の大島利彦と、健康増進部のスタッフ2人が参加した。

○第59回日本臨床細胞学会総会春期大会（大会長 齋藤豪・札幌医科大学医学部教授）が6月1～3日、「癌の早期診断の手法としての細胞診と新技術の融合」をテーマに北海道札幌市で開催され、検査研究センター長の木口一成と細胞病理診断部長の久布白兼行、母子保健検査部のスタッフ3人が参加した。木口はワークショップ「子宮頸癌検診における腺癌の早期発見」で、久布白は一般演題「子宮頸部3」で、それぞれ座長を務めた。



このうち筆者は、パネルディスカッション「検診専門部会アンケート報告『腹部超音波検診アンケート調査から見えてきたもの』」でアンケート結果の報告並びにディスカッションとして討議に参加した。

日本超音波検査学会内には検診専門部会があり、腹部超音波検診判定マニュアルを含めた超音波検診のさまざまな課題に対応すべく活動している。この目的を達成するためには、まず全国規模のアンケート調査を実施して超音波検診の実情を把握することが不可欠と考え、2017年11月に全国367施設にアンケート調査票を配布し、集計作業を行った。アンケート調査に回答したのは367施設中240施設（65%）であった。設問内容は、対象受診者、超音波診断装置、検査者の資格、画像記録、読影及び追跡調査、腹部超音波検診マニュアル、教育などを含む27設問であった。

このアンケート調査の結果、さまざまな課題が浮き彫りとなった。今回は、そこから見えてきた課題を他の委員が提示し、フロアの参加者も交えて実りある討議が行われた。

性教育指導者向け

参加者募集

生きるための心の教育セミナー スキルアップ編

開催日 第16回 2018年11月3日(土) 11:00～16:45 ※受付 10:30より
第17回 2019年2月2日(土) 11:00～16:45 同内容になります

会場 保健会館新館 地下1階多目的ホール(東京都新宿区)

定員 各30名 受講料 各16,200円(税込)

講師 渡會 睦子 東京医療保健大学医療保健学部看護学科 教授
思春期を取り巻く現状や紙芝居教材を活用するための講義が好評です。

小学生にも分かりやすい紙芝居教材

伝えたい「生」と「性」～生きるための心を学ぶ～

オモテ 親しみやすい絵と文章

ウラ 対象学年と指導の際のポイントを記載

■定価:27,000円(税込)

■紙芝居:A4判・110枚組/表カラー・裏1色

■ハンドブック:A4判・16ページ ケース付

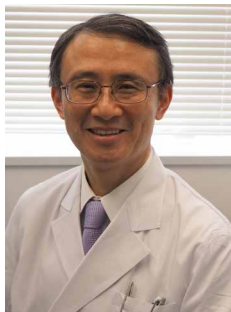
みんなには、いろいろな人生が待っています。今の自分を大切にすることが、将来の幸せにつながります。

JFOA® 一般社団法人 日本家族計画協会

〒162-0843 東京都新宿区市谷町田 1-10 保健会館新館 TEL 03-3269-4727 FAX 03-3267-2658
URL http://www.jfpa.or.jp

久布白兼行医師が 本会の細胞病理診断部長に 就任しました。

久布白兼行(くぶしろ かねゆき) 医師は、1982年に慶應義塾大学医学部を卒業後、同大学産婦人科学教室へ入局。同大学専任講師、婦人科診療副部長を経て、川崎市立川崎病院婦人科部長、東邦大学医学部産婦人科教授などを歴任し、今年度より本会に着任しました。



日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、日本医師会認定産業医などの資格を持っています。

趣味は料理と観劇。得意料理はクリームシチュー、観劇は宝塚歌劇にはまっているそうです。

平成30年度 理事会、評議員会を開催

本会の平成30年度第1回理事会が6月8日に本会で開かれ、小野良樹理事長を議長として、「平成29年度の事業報告と収支決算」「定時評議員会の開催について」「組織改編」などの審議が行われ、い

○第57回日本消化器がん検診学会総会(会長 成澤林太郎・新潟県立がんセンター新潟病院臨床部長)が6月8~9日、「原点回帰——正しい検診を正しく行う」をテーマに新潟県新潟市で開催され、放射線部のスタッフ1人が参加した。

れも満場一致で承認された。理事会で挨拶に立った小野理事長は、本会の事業の柱の一つであるがん検診に触れて、次のように述べた。「本会では精度の高い検査を行い、紹介先医療機関からも信頼を得ている。このことは、がん検診を担当し、職員の指導に当たる優れた医師の存在によるところが大きい。担当医師らが存分に検診に取り組めるよう、環境を整備することが私の役割だ」一方、6月25日に本会で開かれた平成30年度第1回評議員会では柴田昭二評議員を議長に選任し、理事会で決議された「平成29年度の事業報告と収支決算」に関する審議が行われ、満場一致で承認された。なお、今年度の理事・監事の体制は次の通りである。

- 理事長 小野良樹(健康支援センター担当)、専務理事 小川登(経理・検査研究センター担当)、常務理事 大島利彦(職域保健担当)、常勤の理事 阿部勝己(地域・学校保健担当)、前田秀喜(総務担当)、理事 梶原洋(東京都福祉保健局長)、落合和彦(東京産婦人科医会会長)、村田篤司(天童会秋津療育園名誉園長)、根本克幸(神奈川県予防医学協会専務理事)、櫻林郁之介(予防医学事業中央会理事長)、北村邦夫(日本家族計画協会理事長)、監事 小海正勝(弁護士)、中村寿孝(税理士)

(順不同) 7月1日現在



小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります(保険診療)。本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上陸美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院名誉院長 磯辺啓二郎 元千葉大学教授	岡田知雄 神奈川工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木眞理 政策研究大学院大学 教授
外来日	第3木曜日 午前	第1水曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4水曜日 午後	第3水曜日 午後	第1金曜日 午後

前田美穂先生による 『貧血電話相談室』

養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします(無料)

開催日: 第1水曜日 14時半~15時半



問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 学校保健部
東京都新宿区市谷砂土原町1-2

03-3269-1131

遠隔配信シリーズセミナー第1回

学んで救えるこどもの命 PH Japan プロジェクト 日本小児循環器学会主催

日時 8月19日(日) 13~16時(午後の部)

会場 港区・ラーニングスクエア新橋「6A」

演題① 防ごう心臓突然死 救急車到着までの5分間に何を?

演題② いのちのおくりもの 臓器移植と学校生活

演題③ 心臓病の学校生活管理 運動制限ばかりが指導ではない

●対象 養護教諭など学校関係者

●参加費 無料 ●定員 300人(先着順)

申し込み https://supportoffice.jp/ph_japan_project

第281回ヘルスケア研修会

事例に基づく睡眠マネジメント

日時 9月26日(水) 14~16時

会場 千代田区・星陵会館「2階ホール」

演題 事例に基づく睡眠マネジメント—

「睡眠負債」など最近のトピックスを踏まえた対処法

講師 小曾根 基裕氏 東京慈恵会医科大学 精神医学講座准教授

●参加費 2,000円

●申込不要 ●定員 300人(先着順)

問い合わせ 公益財団法人東京都予防医学協会 広報室
☎03-3269-1131 内線2241、2242

一般社団法人日本家族計画協会主催

第1回 聴き上手になる! 積極的傾聴を学ぶセミナー

日時 10月13日(土) 10時~16時

会場 新宿区・「保健会館新館」

●参加費 16,200円(税込) ●定員 30人

●対象 保健師、看護師、助産師、管理栄養士、
栄養士、養護教諭、教諭、医師、
薬剤師など(有資格者のみ)

申し込み、詳細は
JFPAホームページから <http://www.jfpa.or.jp/>

第56回東京思春期保健研究会

学校で配慮と支援が必要な LGBTの子どもたち

日時 11月10日(土) 16時~

会場 新宿区・持田製菓株式会社 本社2階「ルークホール」

演題 学校で配慮と支援が必要なLGBTの子どもたち

講師 日高 庸晴氏 宝塚大学看護学部教授

●参加費 一般:1,000円 学生:500円

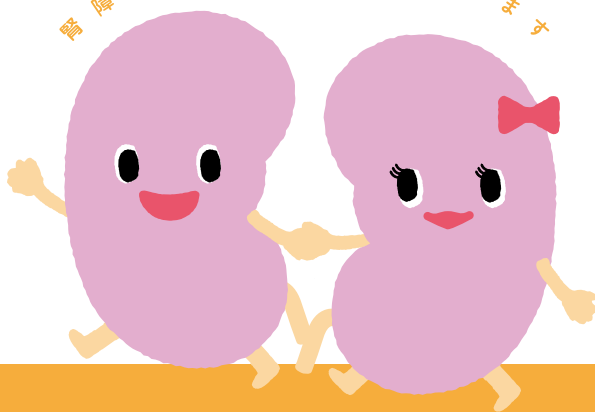
●申込不要

問い合わせ 東京思春期保健研究会事務局 ☎03-5275-1191

norudia
No Diabetes

腎障害の早期判別に貢献します

ずっと一緒に
いたいから。



SEKISUI

体外診断用医薬品

認証番号 226ADAMX00212000

健保適用

尿中ヒトL型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)測定用

ノルディア® L-FABP

新しい視点で、腎障害を早期にキャッチ!

ヒトL型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)は、
腎組織が破綻する前に出てくる早期警報です。



特長

- ① 試薬の調製が不要な液状試薬です。
- ② 各種自動分析装置への適用が可能です。

製造販売元 積水メディカル株式会社

本 社: 〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目1番3号 TEL 03(3272)0681(代表)
ホームページアドレス: <http://www.sekisui-medical.jp>

創刊号の編集を終えて



50年近くにわたり発行し続けてきた『よぼう医学』に終止符を打ち、新しいコンセプトの下、新『よぼう医学』がスタートしました。企画委員の顔ぶれも、従来の理事や部課長中心から若手職員中心に一新されました。発想も自由闊達で「怖いくらい」です。

その斬新なアイデアは毎号組まれる「特集」に色濃く反映されています。これまでの『よぼう医学』にはなかった、本会の顧客や読者を巻き込んだアクティブな企画が提案されています。企画委員には、日常業務の他に制作に関連した作業も発生しますが、楽しみながらやってくれているようです。

創刊特集「これからの職場の健康づくり——健診機関に求めること」では、ゲストとの交渉や日程調整、会場の選定と設営、デザイナーやカメラマンとの打ち合わせなど、何から何まで初めて尽くしました。ゲストはもちろんのこと、進行役をお願いした川井医師やゲストとの交渉に当たったスタッフ、カメラマン、会場の担当者など多くの関係者の協力を得て実現することができました。

タブロイド版から冊子形態への転換といっても広報誌であることに変わりはなく、今後も皆様の健康づくりに役に立つ情報を発信してまいります。ご意見ご感想などいただけたら幸いです。

広報室部長 東 卓也

●個人情報の取扱いについて

日頃より、公益財団法人東京都予防医学協会の機関誌「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。

本会では、「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報（氏名、住所、所属、役職など）を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。送付名簿からの削除や変更を希望される場合には、お手数ですが、下記広報室までご連絡ください。

●送付先の変更・送付中止について

送付先の変更・送付中止を希望される場合には、広報室までお知らせください。

Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp

F A X 03-3269-7562

T E L 03-3269-1131



14200047(06)

健康コンサルタントセンター コンサルテーションのご案内

健康管理相談を お引き受けします

健康コンサルタントセンターの幹事である医師が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします(予約制・無料)。

お問い合わせ・
お申し込みは事務局まで

健康管理コンサルタントセンター 事務局

東京都新宿区市谷砂土原町1-2
公益財団法人東京都予防医学協会 広報室
TEL 03-3269-1131 内線2241、2242

あなたの健康づくりを全力サポート!

よぼう医学

2018 SUMMER 創刊号 No.01

2018年7月15日発行 通巻第529号

●『よぼう医学』は本会ホームページ(<https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp/>)からもご覧いただけます。

※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載をお断りします。



●発行人 小野良樹
●発行所 公益財団法人東京都予防医学協会
〒162-8402 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
TEL : 03-3269-1121
FAX : 03-3260-6900
URL : <https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp>

●企画 広報企画委員会
●編集 広報室
●デザイン 大谷達也(有限会社アイル企画)
●印刷 大日本印刷株式会社

Canon

新しいステージへ。 キヤノンメディカルシステムズが始動します。

2018年1月4日、東芝メディカルシステムズ株式会社は、
「キヤノンメディカルシステムズ株式会社」に社名を変更し、
2018年の新しい年を新たな社名のもとでスタートいたしました。
これからも、「Made for Life」の経営スローガンにもとづき、
キヤノンとの融合により、世界の医療に貢献してまいります。

患者さんのために、あなたのために、
そして、ともに歩むために。

